九州大学
九州大学広報室
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
TEL:092-642-2106 FAX:092-642-2113
MAIL:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
URL:http://www.kyushu-u.ac.jp

PRESS RELEASE（2014/01/24）

本学学生の作品がグランプリを受賞
「2013 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」展覧会及び表彰式

概　要

グランプリに九州大学大学院芸術工学府大学院生の作品が選抜された「2013 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」の作品展覧会及び表彰式が開催されます。

九州大学と福岡県・福岡市等が中心となって主催する「アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」は、アジアから世界へ向けた知の発信とデジタルアート＆デザイン、クリエーターのネットワークや普及を目的として 2001 年に開設され、アジアの感性を背景に、論理的思考に基づいた作品を対象に毎年募集を行っております。

13 回目となる今年度の展覧会及び表彰式は、下記の日程で開催されます。

■内　容

九州大学と福岡県･福岡市等が中心となって主催する「2013 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」の展覧会が平成 26 年 1 月 30 日（木）から 2 月 4 日（火）まで開催されます。

本年度は、平成 25 年 10 月 14 日に第一次審査、10 月 27 日に各分野の専門家による本審査が行われた結果、「アジアデジタルアート大賞」に本学大学院芸術工学府の工藤達郎さん、川端慧さん、土下竜人さんのインタラクティブ作品「DynamicProjection[OCTA]」が選ばれました。この作品は、世界的コンペティションである SIGGRAPH ASIA 2013 の Art Gallery にも採択されました。

また、福岡市長賞に大学院芸術工学府の山内美加さん、永吉宏行さん、岩佐健太さんの動画作品「HAKATAORI」、その他、カテゴリーB 静止画部門大賞にも大学院芸術工学府の Meng Jay Young さんの作品「Expression of Love:喜怒哀楽」が選ばれるなど、九州大学から全 10 作品が受賞しました。

なお、アジアデジタルアート大賞（グランプリ）作品「DynamicProjection[OCTA]」は、表彰式当日の 2 月 2 日（日）及び前日 2 月 1 日（土）にライブパフォーマンスを制作者自ら行います。

（取材の際は、事前に下記「お問い合わせ」までご連絡願います。）

■審査結果

13 回目となる今年度は、世界 13 の国や地域から 515 点の応募があり、68 点が入選しました。

上位受賞者は、下記のとおりです。

●2013 アジアデジタルアート大賞／福岡県知事賞／総務大臣賞
作品名：「DynamicProjection[OCTA]」
受賞者：工藤達郎、川端慧、土下竜人（九州大学大学院芸術工学府）

（カテゴリーA）
●静止画部門大賞
作品名：「MASK」
受賞者：Hiroshi Wakita（Three&Co.）

●動画部門大賞／文部科学大臣賞
作品名：「畳 Journey」
受賞者：小形美希（WOW inc.）

●インタラクティブアート部門大賞
インタラクティブアート部門から 2013 アジアデジタルアート大賞が選出されました。

●エンターテインメント（産業応用）部門大賞／経済産業大臣賞
作品名：「the blink stone」
受賞者：far east method（金箱淳一・首藤圭介）（女子美術大学 アート・デザイン表現学科）

●動画部門優秀賞／福岡市長賞
作品名：「HAKATAORI」
受賞者：山内美加、永吉宏行、岩佐健太（九州大学大学院芸術工学府）

（カテゴリーB）
●静止画部門大賞
作品名：「Expression of Love:喜怒哀楽」
受賞者：Meng Jay Young（九州大学大学院芸術工学府）

●動画部門大賞
作品名：「The Life in Particles」
受賞者：五十嵐俊亮（東京工業大学）

このほか、入賞した 68 点の作品は、平成 26 年 1 月 30 日（木）より、福岡アジア美術館「交流ギャラリー」、「あじびホール」にて展示いたします。

■展覧会と表彰式の日程

（取材の際は、事前に下記「お問い合わせ」までご連絡願います。）

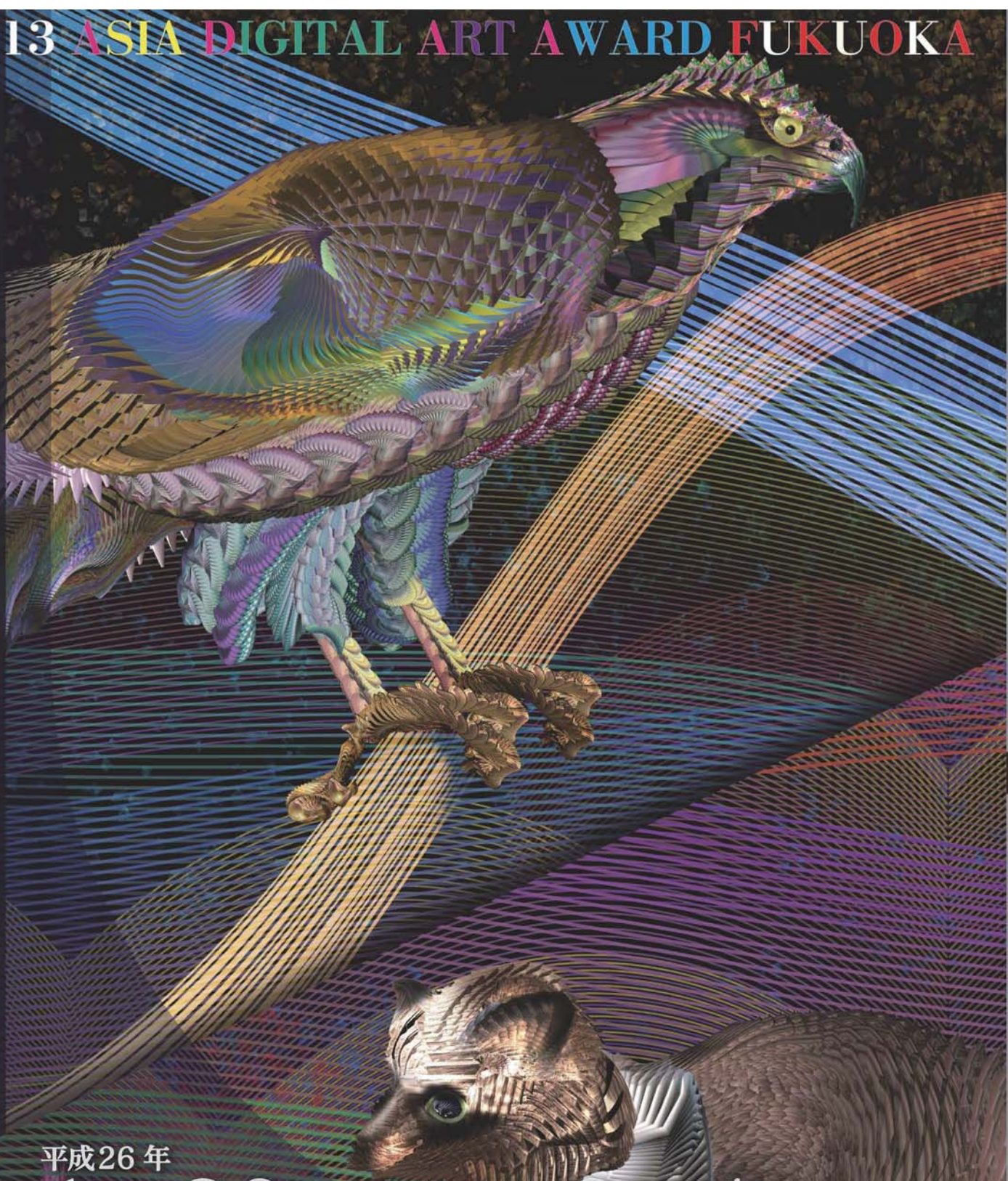
【展覧会】
・ライブパフォーマンス
アジアデジタルアート大賞（グランプリ）作品は、表彰式当日の 2 月 2 日（日）及び前日 2 月 1 日（土）にライブパフォーマンスを制作者自ら行います。
（時間）11:45～、15:45～、17:45～
・一般展示
平成 26 年 1 月 30 日（木）～2 月 4 日（火）10:00～20:00（入館は 19:30 まで）
＊最終日は 18:00 まで（入館は 17:30 まで）
福岡アジア美術館「交流ギャラリー」、「あじびホール」
（福岡市博多区下川端 3-1　リバレインセンタービル 8F）

【表彰式】
平成 26 年 2 月 2 日（日）16:30～17:40
福岡アジア美術館　「あじびホール」（同上）

【お問い合わせ】
２０１３アジアデジタルアート大賞展実行委員会事務局
（九州大学感性融合デザインセンター内）
TEL&FAX：092-553-4577
Mail：kcad@design.kyushu-u.ac.jp
Webサイト：http://adaa.jp

2013 ASIA DIGITAL ART AWARD FUKUOKA

アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 2013



平成26年

1月30日(木) - 2月4日(火)

福岡アジア美術館8階 交流ギャラリー、あじびホール

入場無料 午前10時～午後8時

(最終日は午後6時まで、入館は閉館の30分前まで)

主催：2013アジアデジタルアート大賞展実行委員会
九州大学／福岡県／福岡市／北九州市／(株)西日本新聞社／ラブエフエム国際放送(株)／シーイーシークロスメディア(株)／(株)サイバーコネクトツー／(株)NHKプラネット

後援：総務省／文化庁／経済産業省／駐福岡大韓民国総領事館／CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会)／(財)デジタルコンテンツ協会／(公社)日本グラフィックデザイナー協会／(社)九州経済連合会／(公財)福岡市文化芸術振興財団／三菱地所アルティアム／NHK福岡放送局／NPO法人映像産業振興機構／キヤノンマーケティングジャパン(株)／NVIDIA／ワコム

協賛：公益財団法人柿原科学技術研究財団／SCSK株式会社／株式会社ミドリ印刷／公益財団法人西日本国際財団 (以上予定を含む)

協力：早稲田大学坂井研究室

実施・事務局：九州大学感性融合デザインセンター

アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA ウェブサイト　http://adaa.jp

■ お問い合わせ先　九州大学感性融合デザインセンター　〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1 / TEL/FAX 092-553-4577 / E-mail kcad@design.kyushu-u.ac.jp

2013アジアデジタルアート大賞展in FUKUOKA　カテゴリーA 静止画部門　優秀賞「こりとり」伊藤 幹洋

静止画 大賞

MASK ／ Hiroshi Wakita (Three&Co.)

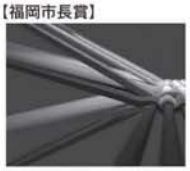
てりとり／伊藤峰洋

FUKUICHI FACE ／片平仁

静止画 優秀賞

動画 大賞

【福岡市長賞】



HAKATAORI ／山内美加、永吉宏行、岩佐健太
(九州大学大学院芸術工学府)

【文部科学大臣賞】

畳 Journey ／小形美希
(WOW inc.)

動画 優秀賞

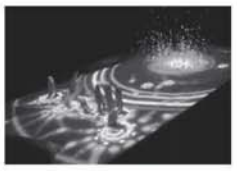
Don't Give Up ／ NoichanSanchai
(KingMongkut's Institute of Technology Ladkrabang)

Fat and Thin Monk ／ LiuDanyun, GongXiaolin, ChenJingsi (Guangdong University of Technology)

2013 ASIA DIGITAL ART AWARD FUKUOKA

インタラクティブアート 優秀賞

Paranga ／伊藤雄一、藤田和之、城所宏行、中島康祐（大阪大学）



AquaTop Display ／
的場やすし、高橋陽一、山野貴吾、徳井太郎、Shin Phuong、小池英樹
(電気通信大学大学院情報システム学 小池研究室)

インタラクティブ部門より ADAA 大賞選出

インタラクティブアート 大賞

エンターテインメント 大賞

【経済産業大臣賞】

the blink stone ／ far east method
(金箱 淳一、首藤 圭介)
(女子美術大学 アート・デザイン表現学科 メディア表現領域)

YAMAP ／春山慶彦 (株式会社セフリ)

Paintier ／ソデフリン
(尚美学園大学)

エンターテインメント 優秀賞

2013 Asia Digital Art Award FUKUOKA

アジアデジタルアート大賞展は今年で 13 回を迎え、福岡から世界に向けた、メディアテクノロジーの高度な表現の場として、世界でも有数のメディア芸術のコンペティションに成長しました。この展覧会のコンセプトは、先端的なメディアテクノロジーの進展を背景に、豊かな芸術的表現をアジアの心を持って表出しようというものです。論理的な思考に基づく芸術的な感性を生かした新たな表現を期待するとともに、メディア芸術を通したクリエータ相互のネットワークの構築を目指します。

出品部門

カテゴリーA

◆静止画部門 ◆インタラクティブアート部門
◆動画部門 ◆エンターテインメン（産業応用）部門

ADAA 大賞

【福岡県知事賞】【総務大臣賞】

DynamicProjection[OCTA] ／
工藤達郎、川端慧、土下竜人
(九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻)

優れた技能と高い芸術性を持つプロフェッショナル・クリエータを目指す方々を対象にメディアテクノロジーを基盤とした論理的思考と豊かな芸術的感性、アジアの感性とが融合したデジタルアート作品です。

詳細は adaa.jp まで

◆静止画部門

静止画 優秀賞

Nirvana ／
LiuDanyun, LinChujun, LiPeiteng
(Guangdong University of Technology)

心／松山充嗣
(長崎総合科学大学)

12Chinese Zodiac and 12constellations ／
LiuDanyun (Guangdong University of Technology)

静止画 大賞

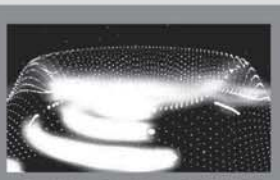
Expression of Love: 喜怒哀楽／
MengJayYoung (九州大学大学院芸術工学府)

デジタルアートに興味のある方、デジタルアートのスキルアップを図っていこうとしている方々による作品です。

カテゴリーB

◆動画部門

動画 大賞



The Life in Particles ／五十嵐俊亮
(東京工業大学)

動画 優秀賞

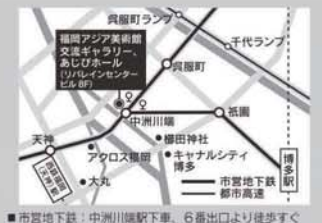
Bonsai ／ ALMUTAWA ALI
(多摩美術大学)

Primo ／村上航、飯山 咲
(トライデントコンピュータ専門学校)

Finding ／ WongKaWan,Candy WongChingHan,Scarlet LauChiKwan
(Department of Multimedia and Internet Technology)

2013 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 2013 Asia Digital Art Award FUKUOKA

- 会　期　平成 26 年 1 月 30 日（木）～2 月 4 日（火）
- 開館時間　午前 10 時～午後 8 時（最終日は午後 6 時）
  ※入館は閉館の 30 分前まで
- 会　場　福岡アジア美術館　交流ギャラリー、あじびホール
  〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル 8 階
  TEL 092-263-1100　FAX 092-263-1105
- 入 場 料　無料
- 表彰式・シンポジウム
  2 月 2 日（日）あじびホール
  シンポジウム：午後 2 時～
  表彰式：午後 4 時 30 分～
  ※いずれも受付は 30 分前より



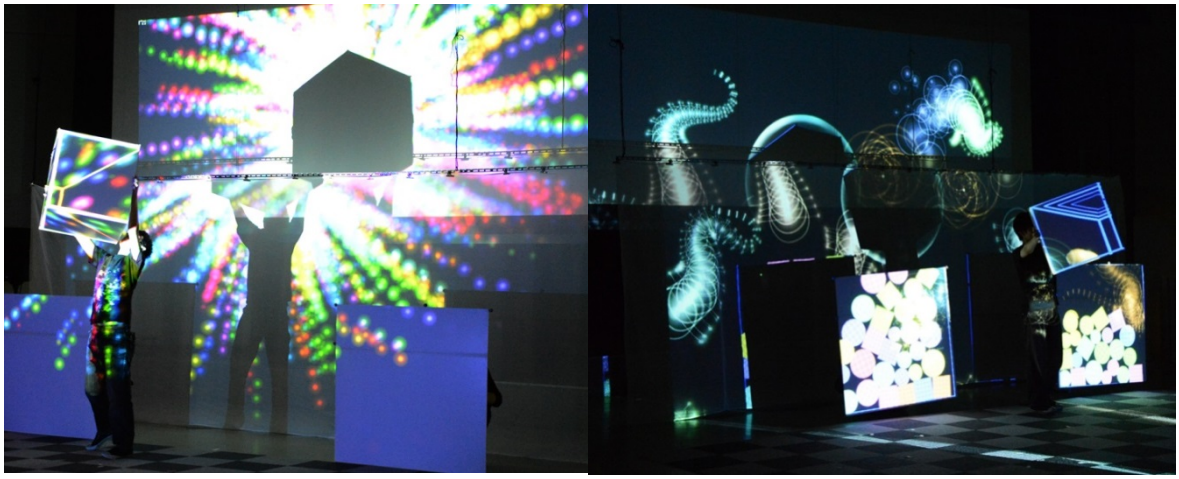
■ 市営地下鉄：中洲川端駅下車、6 番出口より徒歩すぐ
■ 西鉄バス：川端町バス停下車、徒歩すぐ
■ 車：太宰府方面から都市高速千代ランプより車で約 7 分、北九州方面から都市高速呉服町ランプより車で約 5 分
※駐車場：リバレインセンタービル地下 4 階（有料）

お問い合わせ先　九州大学感性融合デザインセンター
〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1 TEL/FAX 092-553-4577　E-mail kcad@design.kyushu-u.ac.jp　http://adaa.jp

●受賞作品紹介

インタラクティブアート部門　アジアデジタルアート大賞

「DynamicProjection[OCTA]」工藤 達郎、川端 慧、土下 竜人（九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻）

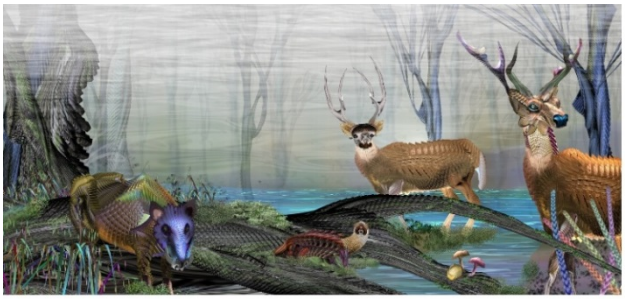


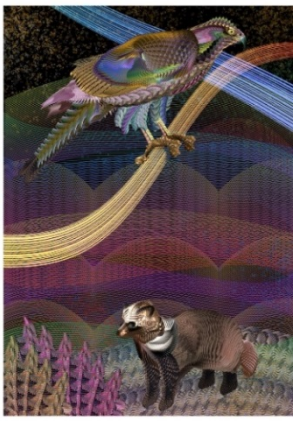
インタラクティブアート作品「Dynamic Projection[OCTA]」は、グランプリにあたるアジアデジタルアート大賞に選出され、総務大臣賞と福岡県知事賞も授与される。通常は建築物など固定した壁面に対して行われる映像投影を複数の投影面に対してモーションキャプチャリングによる位置情報の取得を行いながら、複数の画面を制御しリアルタイムに幾何学的補正を行う。さらにそれぞれの投影面が独自の物理法則を持った映像空間に展開していくもので、独自に開発したマッピングアルゴリズムを用いたものであり、極めて高い技術力と独創性がある作品である。作品は複数の投影面を持った演技者とのインタラクティブな共演によって構成されており完成されたライブパフォーマンスアートである。

作品は、**ADAA**ホームページ**http://adaa.jp/2013/j/13_work.html**の作品紹介をご参照ください。

カテゴリーA　静止画部門　優秀賞

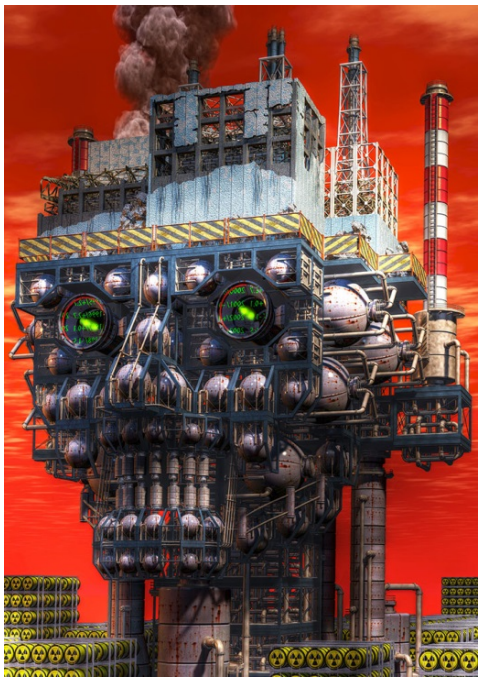
「てりとり」伊藤 峰洋（福島県）





カテゴリーA　静止画部門　優秀賞

「FUKUICHI FACE」片平 仁　（福島県）



優秀賞　「てりとり」や「FUKUICHI FACE」は共に福島県からの応募であり、平穏な動物・自然の世界と原発の恐怖をそれぞれ主題とした強い主張を持った作品である。

作品は、**ADAA**ホームページ**http://adaa.jp/2013/j/13_work.html**の作品紹介をご参照ください。

●審査プロセスの概要

第一次審査を 10 月 14 日（月）、本審査を 10 月 27 日（日）に実施した。

＜第一次審査＞

・アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA のコンセプトおよび出展規定、著作権等の事項について確認し、募集規定に抵触するものを除外した。
・募集作品レベルにスキルや内容が到達していないものを中心に除外した。
・1 人以上の推薦があれば、本審査に進むことを原則とした。
・本審査の対象作品が多い場合は、合議によって若干数を減らした。

＜本審査＞

・本審査委員に対し、本コンペティションのコンセプト及び出展規定の確認を行った。
・本審査用に選抜した作品から、投票により入賞以上の候補作品を選抜した。
・選抜された作品の中からさらに、各部門の優秀賞、大賞候補を選択するための投票を行い、投票数に応じた順序付けを参考に合議によって決定した。
・グランプリにあたるアジアデジタルアート大賞の選抜においては、各委員の作品講評のあと投票により決定した。

＜応募作品の審査についての補足＞

インタラクティブアート部門やエンターテイメント（産業応用）部門においては、応募映像と共に、実機の作動、制作過程、アルゴリズム等について審査補助員からテクニカルな報告を受ける場合がある。また、本審査当日に出席できない審査員については、事前に作品データ等を送付し入選候補の選抜段階において審査得点に加えた。

＜ 25 年度審査委員＞

・第一次審査　審査員
　坂井滋和（早稲田大学教授）本審査委員
　富松潔（九州大学大学院教授）
　源田悦夫（九州大学大学院教授）本審査委員
・本審査　審査員
　河口　洋一郎　（東京大学大学院情報学環教授）
　金　鐘棋　（中国上海音楽大学教授・東方デジタルメディア研究開発センター所長／韓国東西大学校教授）
　源田　悦夫　（九州大学大学院芸術工学研究院教授）
　中島　信也　（(株) 東北新社取締役／ ＣＭディレクター）
　坂井　滋和　（早稲田大学大学院教授）
　鄭　道成　（韓国国民大学校 UIT デザイン教育院 院長）
　杉山　知之　（デジタルハリウッド大学 学長）
　安永　幸一　（福岡アジア美術館顧問）

＜審査結果の公表＞

・入選のお知らせ及び著作権等の確認書の送付：2013 年 10 月 29 日（火）
・受賞者に通知、確認後、平成 25 年 11 月 29 日（金）に 2013 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 公式ホームページや九州大学ホームページ等を通じて公表した。

●審査講評

源田悦夫（九州大学大学院芸術工学研究院教授、2013 アジアデジタルアート大賞展実行委員会事務局長）
審査委員を代表して本年度の審査について講評を述べる。
13 回目となる今年は、世界 13 の国や地域から 515 点の応募があり 68 点が入選した。このコンペティションが求める作品は、先端メディアテクノロジーを背景とした論理的な思考と芸術的感性との融合、さらにアジアの文化、風土に根差した世界レベルの作品です。この要求に対して本年の傾向は、インタラクティブアートに優れたものが見られる反面、動画部門において斬新なものが見られなかった。しかしアジア諸国、特にタイ、中国、台湾等からは、技術的に優れた作品が応募され当該分野の飛躍的な成長がコンペティションの結果からも感じられた。

＜動画部門＞

カテゴリー A 動画部門大賞（文部科学大臣賞）に「畳 Journey」が選ばれた。この作品は、日本の大広間を開けるたびに、次々と提示される日本語の微妙なニュアンスをユーモアな表現をもってアニメーション映像に反映させ、最後に、見る側に日本のイメージを問うストーリーとなっており、ユニークな発想と表現力が評価された。本年度から初めて設定された福岡市長賞は、全カテゴリーの中から挑戦的で高度な人材育成や産業振興の分野で発展が期待できる作品を対象として選抜される。本年度は、動画部門優秀賞から博多織の製作過程を織られていく糸の視点から映像化を行った作品「HAKATAORI」が選抜された。
カテゴリー B 動画部門大賞は、物理的な法則性に潜む美を追求した「The Life in Particles」や優秀賞「Bonsai」が選抜され、論理的思考に基づいた表現が感じられる作品である。「Finding」は舞踏と CG との融合が優れた作品である。いずれも挑戦的な作品である。

＜静止画部門＞

カテゴリー A 「MASK」は、CG と疑うような実写の撮影術および画像処理技術とを融合し、不思議で迫力あるグラフィックス世界を作り出しており、その斬新なイメージが評価された。優秀賞「てりとり」や「FUKUICHI FACE」は共に福島県からの応募であり、平穏な動物・自然の世界と原発の恐怖をそれぞれ主題とした強い主張を持った作品である。
カテゴリー B 作品「Expression of Love: 喜怒哀楽」は、独自開発したアルゴリズムによる顔形状連続変形システムを用いた作品である。優秀賞「12 Chinese Zodiac and 12 constellations」「Nirvana」は中国からの応募であり、東洋的な風土、歴史を背景としたテーマである。作品「心」は、基礎的な表現技術に基づいた制作がされている。
全般に、テーマ性と共に技術的な精緻さがこの数年来の傾向となっている。またカテゴリー A、 B の静止画部門全体において、荒削りであるが実験的な作品が多く期待される。

＜インタラクティブアート部門＞

大賞作品「Dynamic Projection[OCTA]」は、グランプリにあたるアジアデジタルアート大賞に選出され、総務大臣賞と福岡県知事賞も授与される。通常は建築物など固定した壁面に対して行われる映像投影を複数の投影面に対してモーションキャプチャリングによる位置情報の取得を行いながら、複数の画面を制御しリアルタイムに幾何学的補正を行う。さらにそれぞれの投影面が独自の物理法則を持った映像空間に展開していくもので、独自に開発したマッピングアルゴリズムを用いたものであり、極めて高い技術力と独創性がある作品である。作品は複数の投影面を持った演技者とのインタラクティブな共演によって構成されており完成されたライブパフォーマンスアートである。優秀賞「Paranga」は、本が本来もっている特徴であるパラパラめくりの操作を曲げセンサーやロータリー・エンコーダによって制御しながらコンテンツを展開していくもので、書籍本来が持つ情報取得におけるインタラクティブ性を実現させた電子ブックを提案している。「AquaTop Display」は、プロジェクターから風呂の水面に投影された映像を手で触れることで、手の動きを認識して形や色を変化させるもので、お風呂で楽しい電子水遊びが表現されている。
各入選作品とも、人間とマシンあるいは人間と人間との相互関係性を位置情報やセンサーを巧みに使ったものであり、独自のプログラムやアイデアで作品を制作しており、インタラクティブアート部門は全般的にも優れた作品が多く期待できる分野である。

＜エンターテイメント（産業応用）部門＞

エンターテイメント（産業応用）部門大賞「the blink stone」は、小石を踏みしめて歩く感覚を連鎖して動く光る石群として表現したものであり、個々の小石はエネルギーの供給、振動の感知、小石の振る舞い、発光など自律的に作動する。インタラクティブやエンターテイメント作品は、応募用のプレゼンテーションビデオでは、うまく作動する状況が提示されているが、実際の作品では、試作機的な状況のものやプラグラムの作動ができないものが多い中で、当該作品は展示品としての完成度が特に評価された。優秀賞作品「YAMAP」は山歩きをスマフォから提供される地図情報と共に、行動中や事後に参加するコンテンツを通して総合的に楽しむものである。「Paintier」は色彩を塗ってステージを攻略していくゲームで特色あるイラストが評価された。全般にスマフォコンテンツやゲーム関連の作品は不調である。スマフォやゲーム機を持ったコンテンツは、なぜそれらの機器を使う必然性があるのか、目的は何か、表現はどのようにするのか、といった側面をしっかりと捉える必要がある。機器の制約を越えた発想や興味ある UI やセンサーの開発に関しての発想に乏しく、もっと既存の枠を飛び出したデジタルエンターテイメントへの挑戦が求められる。また、応募作品の中には、ボーカロイドや振付ソフトを使用した作品が見られ、ネットワークを使った複数の作者による作品が応募されている。これらの傾向は今後もますます続くものとみられるが、現状では芸術性、創造性、クリエーティブコモンズに伴う著作性などに問題があげられる。今後クリエータが連携しながら行う新しい芸術行為やコンテンツ創成のスタイルとして存在しうるものであり、今後ソフトを越えた魅力ある表現力や論理的思考性を持った作品の出現の可能性を期待する。また、現状はエンターテイメントとインタラクティブアートとの境界付けが難しいこともあげられるが、メディアテクノロジーのみが先行や単純なゲーム性に溺れるのではなくこのコンペティションのテーマである、論理的思考を基盤とした芸術的感性表現についての真摯な取り組みが望まれる。

作品は、ADAAホームページhttp://adaa.jp/2013/j/13_work.htmlの作品紹介をご参照ください。